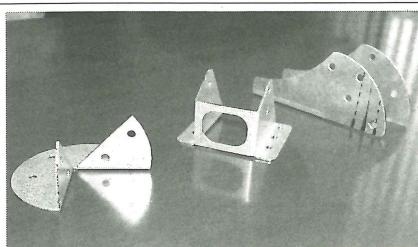


## 隠れたヒット商品

ポラス暮し科学研究所

ボラス暮し科学研究所（埼玉県越谷市、小見豊社長）が開発したタルキ留めの捻り金物に代わる「ラフターロック」が好評で、年間30万個以上使われている。ラフターロックはタ

ルキと桁、棟木を固定する時に使用する丸形の金物で、中心部までカットして90度折り曲げた形状。タルキと桁を緊結することで屋根構面を実現できる。「耐力壁の性能は注目されるようになつた。しかし、耐力壁の性能を差



発している。ラフターロック「ラフターロック リーフ」  
ターロック ゼロッタの軒先側に穴を開け、破風板の固定  
にも使えるよう工夫している。  
さらに「ラフターロック リーフ」を開発した。  
屋根パネルなどパネル側のタルキと  
桁を繋結できるもので、後施工できるのも特徴だ。  
同社はホールダウン  
金物に代わる「インク

性を高めることが重要で、小屋梁の火打よりも屋根構面を一体化できることにメリットがある」と同研究所。ラフターロックが隠されたヒット商品になり、「ラフターロックゼロ」という軒なしの住宅にもタルキと桁を繋結できる金物を開発

ルーズ」という金物も開発しており、0・6ミリの鋼鉄をホゾ指しに入れ込み、ビスで留め付ける。13 kNと24・5 kNのタイプがある。トルクなどを現しで使用する際に金物が露出しないで美しい仕上がりになる。「側面からVカットビスで留め付け、鋼鉄を突き破つて

ビスが貫通するといふじ  
鋼釗にバリが生じ、緩  
まない接合部ができる  
る」(同)。O・G・ラ  
厚の鋼釗をホゾに巻き  
込むように施工するた  
め、ホゾ穴の寸法を変  
更する必要があり、こ  
れをプレカット加工で  
きるようになると効率  
が良くなるものと期待  
されている。